こんなところに
仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

隠元（いんげん）

日本の食べ物には、仏教から名前が付いたものがあります。たくあんは沢庵和尚から、高野豆腐は高野山から、といった具合です。

今回ご紹介の隠元もそうです。さやいんげん、インゲン豆の隠元はお坊さんの名前だったのです。

隠元禅師は、中国福建省の生まれで、江戸時代初期に日本に渡り、明の禅を伝えます。４代将軍徳川家綱と謁見し、寺地を賜り、黄檗山万福寺（京都府宇治市）を開きます。中国の様々な書物や文化を伝える中で、隠元禅師が日本に持ってきた豆を、インゲン豆として親しまれるようになりました。

初めて見たもの、発見したものには、その人の名前が付く場合があります。ということは、西光寺名物のピザの中でも、住職が発案した世にも珍しき高菜ピザ。みなの舌鼓を打つ高菜のピザは、将来円秀ピザと名付けられることでしょう。・・・そんなわけはないか。

土を掘り
ここミズ現れ
驚く事
でもきっと
ここミズの方が
ビックリだ

引導（いんどう）

止むを得ん！俺の名前は引導代わりだ。迷わず地獄に堕ちるがよい！　「長七郎江戸日記」より

よっ、里見浩太朗！というところですが、世間の引導の使われ方は大方このように、相手に対して、死の宣告をするといったところでしょうか。

仏教の使われ方はどうでしょう。引導とは、誘引開導の略で、人々を導いて仏道に入らせることを意味します。また、他の宗派では、死者が迷わないように導師が悟りへと導くことを引導を渡すと言います。浄土真宗は、阿弥陀仏の本願力によって導かれますので、この考え方はありません。宗派によって、大きく考え方の違うところです。

いずれにせよ、引導とは、相手に対して生きることを諦めさせたり、死に追いやるという意味ではなく、苦しみ悩みから解放されるための、真実に導くという意味で用いります。